

【報告（1）】 地域公共交通確保維持改善事業の事業評価について

- ・ 地域公共交通確保維持改善事業の平成 28 年度事業評価を行い、北陸信越運輸局長へ報告を行いました

（1）事業評価の概要

地域公共交通確保維持改善事業の補助金を受けて実施する事業については、地域公共交通活性化協議会が年度ごとに評価を行い、地方運輸局長へ報告することとなっています。

（2）対象事業

- ・ 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金 …あやめバス、川東コミュニティバスの運行
- ・ 地域公共交通調査事業（計画策定事業） …地域公共交通網形成計画の策定

（3）書面協議の結果と反映状況

- ・ 「平成 28 年 12 月 27 日付け地公協第 34 号」のとおり書面協議を実施し、全委員から承認を得られました。
- ・ 提出された意見内容に基づき、次のとおり修正を行いました。

<意見内容（抜粋）>

- あやめバスの目標・効果達成状況の評価について
 - ・ 目標は2つとも達成できなかったが、新発田市地域内フィーダー系統確保維持改善計画で掲げられた事業の効果は表れていると考え、評価は B（事業が計画に位置づけられた目標を達成できていない点があった（一部達成できない見込み））としました。
 - ・ 上記の内容がわかるよう、記載を追加しました。
- 「地域公共交通調査事業（計画策定事業）」の記載の表現について
 - ・ 指摘に基づき字句を修正しました。

（4）北陸信越運輸局長への報告

- ・ 別添のとおり北陸信越運輸局長へ報告を行いました。
*下線部分を追記・修正
- ・ 市ホームページに一次評価（自己評価）を掲載する予定としています。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

平成29年1月12日

協議会名: 新発田市地域公共交通活性化協議会

評価対象事業 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
新潟交通観光バス(株)	あやめバス 申請番号(1)～(7)	<ul style="list-style-type: none"> ・意向調査からは「路線情報をわかりやすくする」「運行状況の発信を充実する」等の改善要望があった。 ・鉄道やコミュニティバスとの乗継ぎに配慮したダイヤ設定、イベントでの車両展示や沿線施設への時刻表配布等を行った。 	A 計画通り事業は適切に実施された。	<p>＜実績(目標値)＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ①年間利用者数8.0万人(9.2万人以上) ②年間収支率26.1%(30%以上) <p>＜事業実施による効果＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>中心市街地の公共交通空白地域の改善</u> ・<u>自動車の運転できない高齢者、学生などの交通弱者の移動手段の確保</u> ・<u>中心市街地の活性化</u> ・<u>車椅子対応の低床車両、位置情報提供システムの導入による利用環境の改善</u> <p>＜達成状況の分析＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・沿線外で住宅地や商業施設の開発が進むなど、移動ニーズの分散等により、日中の利用(買物、通院等)が伸び悩んだ。 ・<u>中心市街地における各公共施設、商業施設、医療機関等への移動手段として、交通弱者をはじめとした市民に定着しており、事業効果は表れている。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ・バスロケーションシステム(「バスどこ」)の充実やPR活動の継続など、情報発信を中心に利用者数の確保を図る。 ・現状の利用状況に応じ、より適切な目標設定について検討する。
新潟交通観光バス(株)	川東コミュニティバス 申請番号(8)～(18)	<ul style="list-style-type: none"> ・乗り方教室の実施や停留所別時刻表の配布、中学校卒業生への回数利用券贈呈等を行った。 	A 計画通り事業は適切に実施された。	<p>＜実績(目標値)＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ①年間利用者数4.8万人(3.3万人以上) ②年間収支率9.1%(12.5%以上) <p>＜事業実施による効果＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>合併町村を含む各地区から市街地の各施設への移動利便性向上</u> ・<u>自動車の運転できない高齢者、学生などの交通弱者の移動手段の確保</u> ・<u>中心市街地の活性化</u> ・<u>車椅子対応の低床車両、位置情報提供システムの導入による利用環境の改善</u> <p>＜達成状況の分析＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高校生の通学など、新発田駅方面へ向かう朝の便の利用者が増加した。 ・特別支援学校への通学利用者(手帳提示により無料)が多いため、収支率は目標を下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・通学利用者を確保するため、通学に配慮した運行内容の検討を継続する。 ・買物、通院利用者の確保に向け、住民向けの利用促進(時刻表配布、乗り方教室等)を継続する。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(計画策定に係る事業)

平成29年1月12日

協議会名:新発田市地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名:地域公共交通調査事業(計画策定事業)

①事業の結果概要	②事業実施の適切性		③生活交通確保維持改善計画又は地域公共交通網形成計画等の計画策定に向けた方針
<p>【事業内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現状整理 ・新発田市地域公共交通網形成計画(案)の策定 ・意向調査 ・協議会の開催 <p>【結果概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人口分布や施設の立地、公共交通等の状況等を調査し、現状を整理した。 ・当市の新しい公共交通のマスタープランとして、計画素案を作成している。 ・高校生アンケート調査、利用者意向調査により、学生や地域住民の利用ニーズを把握することができた。 ・今後の協議会の検討を経て、地域公共交通網形成計画として最終的にとりまとめる。 	A	<p>計画通り事業は適切に実施されている。</p>	<p>各種調査からは、市内の各地域から市中心部の学校・病院・商業施設といった日常生活に係る施設への移動に対応する公共交通が必要とされていることがわかった。自家用車の利用できない学生・高齢者・障がい者の日常生活における移動手段の確保を主眼として、地域に応じた公共交通の整備や利用環境の向上、持続可能性の確保等を目標に、今後の施策を整理する。</p>